

♪ みんなにこにこ！笑顔につながる おてつだい♪
チームみねっぴ〜の とくべつしえんだより



いよいよ、今年度の折り返し地点となる時期です！

～「自分に合ったやり方」を見つけながら、自分のもてる力を十分に発揮できるために～

学校は夏休み明けとなり、いよいよ1学期のまとめの時期となりました。

日頃より、保護者の皆様におかれましては、お子さまへのご支援をありがとうございます。

夏の疲れが出るこの時期は、お子さまだけでなく、大人である私たちも十分な栄養と休息を意識しながら、様々な出来事に向き合うための心身の力を整えていきたいものですね。

学期末となりました学校では、各学年の発達段階に応じ、今までの学習を振り返りながら、お子さま自身が「自分の成長」を実感できる時間を大切に生活しているところです。

日々の生活では、「なぜ、勉強するの？」「どうして苦手なことも自分にあったやり方を見つけながらやるの？」「どんな力を身に付けていけば、大人になったときに困らないの？」などとお子さまが疑問に思うことがあるかもしれません。

お子さまは、それぞれ違う「個性」があります。



一人一人違うお子さまが、落ち着いて課題に取り組むことができる自分に合った環境で、「自分に合ったやり方」を見つけながら、安心して小さな成功体験を積み重ねるといいですね。

今回は、教育や医療の分野でご活躍の先生方の著書から、そのヒントとなる内容をご紹介します。ぜひ、ご参考になさってみてください。

著書【「本当の「頭のよさ」ってなんだろう？」】

誠文堂新光社出版

明治大学教授 斎藤 孝先生からのメッセージより

- 学校を出てから人生で求められる頭のよさとは、「社会的適応性」の高さです。
- 「社会的適応性」に必要な力は、「思考・判断・表現力」です。
- 「自分で考えて自分の意見をもって人と対話ができること」「問題を発見して探究して自分で考えたことを自分なりに表現できること」「自分が今何をしたらいいのかが分かり、次の行動をとることができること」です。
- 「何のために」という角度や目的、脳が「快」の状態になる「ワクワク感」「好奇心」があると「頭の回転」がよくなります。
- 勉強は、「自分を今よりも生きやすくしてくれる」「自分の中に『多様性の森』を育てること」「自分の世界を広げてくれるもの」です。

著書【子どもの発達障害】

～子育てで大切なこと、やってはいけないこと～ SB新書出版

精神科医・医学博士 本田秀夫先生からのメッセージより

- 人は、だれでも苦手なことがあります。苦手なことを「苦手なやり方」で、無理にやっていたら、なかなか身に付きません。
- 苦手なことをやらないで「人任せ」にしていたら、大きくなってから自分が困ることになるでしょう。
- 大切なことは、苦手なことは、「その子なりのやり方」「自分なりのやり方」について「大人と一緒に見つけながらやる」ことです。
- 一人でなんでもできるようになることではなく、これは苦手だけれど、人に協力してもらったり、人の力を借りられたりすることを「自分なりのやり方」としてできるようになったらいいです。
- 大人になったときに大切なのは「生活力」です。